

皇太子殿下

けふ第六回の御誕生

【東京二十日電】皇太子殿下は、今日（二十日）午後六時、皇居内閣で第六回の御誕生をされた。皇太子殿下は、今日（二十日）午後六時、皇居内閣で第六回の御誕生をされた。皇太子殿下は、今日（二十日）午後六時、皇居内閣で第六回の御誕生をされた。

堀内大使も現地會談

ハル長官と協議

日米關係の將來に光明

【東京二十日電】ハル長官は、今日（二十日）午後、堀内大使と協議を行った。ハル長官は、今日（二十日）午後、堀内大使と協議を行った。ハル長官は、今日（二十日）午後、堀内大使と協議を行った。

第七十五議會成立

【東京二十日電】第七十五議會は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。第七十五議會は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。第七十五議會は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。

衆議院議員

【東京二十日電】衆議院議員は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。衆議院議員は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。衆議院議員は、今日（二十日）午後、衆議院で開会した。

市民

【東京二十日電】市民は、今日（二十日）午後、市で開会した。市民は、今日（二十日）午後、市で開会した。市民は、今日（二十日）午後、市で開会した。

鐵道警護隊の話

【東京二十日電】鐵道警護隊は、今日（二十日）午後、鐵道で開会した。鐵道警護隊は、今日（二十日）午後、鐵道で開会した。鐵道警護隊は、今日（二十日）午後、鐵道で開会した。

別に颯爽とは

してゐないよ

鮎川總裁看京談

【東京二十日電】鮎川總裁は、今日（二十日）午後、京で開会した。鮎川總裁は、今日（二十日）午後、京で開会した。鮎川總裁は、今日（二十日）午後、京で開会した。

日ソ通商協議

東郷、ミコヤン會談

【東京二十日電】東郷、ミコヤンは、今日（二十日）午後、日ソ通商協議を行った。東郷、ミコヤンは、今日（二十日）午後、日ソ通商協議を行った。東郷、ミコヤンは、今日（二十日）午後、日ソ通商協議を行った。

戦線に出動する獨偵察機

ドーンケル及び

【東京二十日電】獨偵察機は、今日（二十日）午後、戦線に出動した。獨偵察機は、今日（二十日）午後、戦線に出動した。獨偵察機は、今日（二十日）午後、戦線に出動した。

人事往來

【東京二十日電】人事往來は、今日（二十日）午後、人事で開会した。人事往來は、今日（二十日）午後、人事で開会した。人事往來は、今日（二十日）午後、人事で開会した。

佛北支駐屯隊

【東京二十日電】佛北支駐屯隊は、今日（二十日）午後、佛北で開会した。佛北支駐屯隊は、今日（二十日）午後、佛北で開会した。佛北支駐屯隊は、今日（二十日）午後、佛北で開会した。

河野醫院

【東京二十日電】河野醫院は、今日（二十日）午後、河野で開会した。河野醫院は、今日（二十日）午後、河野で開会した。河野醫院は、今日（二十日）午後、河野で開会した。

天津地街檢問

【天津二十日電】天津地街檢問は、今日（二十日）午後、天津で開会した。天津地街檢問は、今日（二十日）午後、天津で開会した。天津地街檢問は、今日（二十日）午後、天津で開会した。

山宝は度仕あ、曜日はすあ

し出賣大末歳店全

【東京二十日電】山宝は、今日（二十日）午後、山宝で開会した。山宝は、今日（二十日）午後、山宝で開会した。山宝は、今日（二十日）午後、山宝で開会した。







見進

御満

禮員

は損!

版華豪大

愛染

海を行く武士

東郷太五郎大スタア 徳演

中 絹 代

上 田 信

分 利

力

可

長春座

一回 均一

新春

封切!

一作の大

暖

高峰三枝子

佐分利信

水戸光子

法川









見

滿

禮

は損!

版華大

愛染

東坡大馬外五火スア一總預

海をへ行く武士

カ

田上佐

中

利

議

新刊

一回均

長春座

一本の大

暖

高峰三枝子  
佐分利信  
永戸光子

新春

封切!

流



京新

宝

一〇五〇年

全店歳末大賣し

切一物荒と物りぬ・磁陶・寶三・棚神・箱重・器群屠

階地

寶山犬歳の大市

階三	物置器花と軸掛春
階四	器漆級高と器茶燒谷九
階五	計時置型新の山寶
階六	物小と彩入の味趣
階七	列陳板子羽

階一	品用日用月正
階二	絨卷新と苔海京
階三	下靴とツヤジ入
階四	イタダシニーモツヤジイワ
階五	水一ヨジ皮毛級
階六	菱衣月正お環

級毛皮  
撰お正月

特撰 階 二 八  
階 三 裳

羽子板陳列

寶山太歲

市の階地



（臥龍ビル）





春原  
龍太郎は清



流れて来る

このメロディ：  
歌手 霧島昇  
ミス・コロムビア  
二葉あき子

はコロムビア  
レコード



THE KING OF RECORDS

出征入營には  
この歌でお送  
り致します

永田海軍員  
井兒林 永田 長門  
口三 絳長 門門  
横山 門門



陸軍省撰定 講談社懸賞募集一等賞選歌

# 出征兵士を送る歌



簡  
豐  
子

外は夢中で、困つたところの中を夢中と走り去つて二個もたぬ中危い。」その聲も耳に入らなかつた。

「よし」と轉かつて、水の飛沫を始めて感ぜるとき、腰に纏みて懸けた時、「さうしたんです。この眞夜に、氣でも狂つたんですか!」

滑稽いた謔がかへる。「まさか急病にかゝ来たのでまじならんや、何處へ行く所ですか。」

肩を綱までへてやんと立つかうとしたが男の顔を、またたくまに蒼白な女使女は驚きを見た。祟附であるから、いかに能くても一舞、氣まづれて下で半死し、又氣をも復するかと、留置場に引張られかも知れませんよ。お嬢さん。」そして、小娘さまようにつかふと思つた、皮肉なものの方です。

「急に、わつと立ち出すと彼女はいきなり私の胸にしめこむには、わつと言ふ方

大内隆雄

「それでは、さういふお話を聞かして下さる。それは、今も、お聞きなさい。」と、お話しなさうになつて立つた。

しかし、雨が降つて居ますよ。それにそんな寒巻のまゝで、今更のやうに新聞書の姿を知つて、當惑したやうに唇をかんだ彼が、「それでも、厭わぬ。」きつぱり言ふので、いきなりくるりと又、後向きになつてゐた。

「要は、そんな格好で外へ歩けたら、勝手にしてお行なひなさい。」

舌打ちをしたものゝ、引止めて、「どうしたんですか。一體どこの再會でも持つて行きたくないとおや、それ程だ。」

果して、彼は、ばつ／＼と自分の袖を、自分から彼女に授け渡す、自分の部直に入つた。

黒くカスに光を輝かせ、手を握みなからり同くと口々に互稱する、じよんばかりに居る。

びつたり顔に髪毛が眉

「あんまり吃驚しなで……立つて居ないかい？」とときれ／＼と言ふ目をして、暖もたれ／＼つてしまつた。

二たい、本當にどうしたかと言ふんやうにと近よつて行かうとするとき、

「いゝの。直ぐ、睡んですから。あまり吃驚したかなの。傷によらなで。」

――

早晩は難い酒酔をしたまひ、黙つて廊下に出る。彼女の部屋へ行つて見ると、さういふ居るさまに、廊下の端にて居る者が居る。きつて、唐装の後女の先刻の様子に氣づいたのだ。

崇剛は男をわちと説き返して、肩をはつておのそのそと廊下へつた。

さて何んな後女の室の十一號の戸を開けたら、途端、ベッドの傍に、白く無くのび一人の女が、むく／＼鎌首を上にあひくつとせながら、ばつと一刃を直ちに、と怒気を含んで扉に入つて崇剛をは、次の御果れたやうに――

「おお、秋本君ぢやないか。敵意を含めて見て居た秋本は、急にぐつと首を取られると」

死んだ。崇剛君、僕はもう、死んだ。

――英、英、君は又お酒をのんだ。醉つてみさけに……。さ、早く醒め給へ。誰にも知られては出な

銀指ひなど、腰巻もどめ言ひながら、大急ぎで抱え起すと、外に引張出すので、外に引張り出されて、一ね、君、お困ひだ。自置してくれ給へ。つまらないことだ、信用とすぢやないかい？」

辭つた耳にも、その聲で附たと見え、秋本は近頃を怪しくして、

「……僕は何すべき人間なんだ。畜生様な人間なんだ。僕が謝つたんだ。さ、いよいよ。何もかも。緒さまだけや女のおぢやあまいし……。」

いや、美緒さんに非なんんだ。……」

いんだ。さあ、黙つていな。……」

やつとの事附下に獲手起と、部屋の奥に入つて見たとき、彼女は見えてゐた。それも、彼女にはなつて見えたりと泣いて居る秋本拾ひも、置け、服を脱ぎ替へて自分の布靴の中に引入れて置きてゐた。

「有難う。有難う。……」

「なほもしきり泣いて、何かくだ／＼言ひなかつたら、それをなからさうと」と振向くと、一間のカートンのかげから、つと埃を捲き出して来た美緒玉、黙つてつそり室内へ出て行くやうにして居た。

無言で立上った後は、秋本を氣づけれぬやうに大きな箱に熱い湯で居るコヨツクをばいにに入れて、塵を出す。

學本年の回顧(三)  
 る満系の  
 作活動  
 大内隆雄

の創るもの。あつた。後、新小説は、  
 ばし。この二百年の間に、  
 一轉した。その最も最近の  
 もので、それは、  
 有力な作家が、  
 行はれてゐる。  
 といふことである。  
 化月

いに、  
 目してゐる。  
 小説は、  
 まさか、  
 議論を主とした作品であると

更にこれの内容に入らな  
 つて考へておられは  
 處よ。文學が充實完  
 ある。たとへば滿洲漢文  
 轉脚に描きを紹介した石軍  
 の「第一」これは、歴史文  
 志「鄭經」に掲載された  
 のであつた。現下漢文學  
 の水準を示すものであると  
 言ふことが出来ると思ふ。  
 である。「新天地」に紹介  
 した小松一庵氏は、また同  
 誌所載の本のものであつた。  
 また生田譯出本にある  
 が、「陳公」第二冊には、  
 古干氏の「百枚の力」「平  
 抄」を發見し、小松氏より  
 校の作品を翻案文を書い  
 てゐるのである。日本文家  
 と比べて最上を行つてゐるこ  
 とが判るであらう。

「平抄」は古干氏の原書  
 と同じやうな世界を描いた  
 一段の進展を認められと思  
 ふ。いつ何處かに介介し  
 ないものと思つても可い。  
 小松の「滿洲文」も、筆數の

言ひごとが出るのである。  
 「文壇にも深い印象をあた  
 が、それ人に強い印象をあた  
 得た。殊に吳山、山丁、櫻痴  
 等の諸君のものも時々驚く  
 べき。本稿執筆の時までは、  
 に吳珠さんの「兩橋」を讀  
 ひ讀を得なかつたことであら  
 び申謝したい。思ふ。呉山は  
 ば芝居通讀のごころ原稿の  
 最後までも脱記したいと思ふ

× 事小説について書かれた  
 が、詩や隨筆を仲々に感心  
 であつた。歴史上主眼たる  
 つての外文の力作の多きを  
 注目するべからう。詩、隨  
 集、近ごろ數行せる寛

× 民生部で募集した記念文藝  
 運動は、春分では李卓風  
 の「春分の復活」を得た。  
 白の高い作として注目され  
 されたものであつた。「體に  
 も振はなかつた。又文藝界  
 漸く木米目的に逐次獲得  
 ゑうにうたふたうに返は

× 詩文文學の現状はいよいよ  
 著しく窮乏といふ。世界  
 を以て敵ながら出て來てゐ  
 いう。譯文家としてゐる  
 更なる角、發表するととい  
 といふことが事だといふの  
 と照合させて、これ種々の正

皮膚泌尿 性病 外科  
**同仁醫院**

醫學博士 市橋貞三  
新井富士町二丁目 電③2606番

居るのです。私は今  
の光に顔を向けて

十七の時鐘たてなあ」一そ  
りやあ昔はさうだが今の娘  
では……それにまだ、女

みづめにはありません。もう前二時です。先程から何回も蒲田に入ったり出たりしました。如

皮膚泌尿性病外科  
**同仁医院**  
醫學博士 市橋眞三  
新京富士町二丁目 電話2606番

何しでと駄目です。  
ぬけ大感傷のなつた事  
い夜はあらししいのでうすから  
私はちつと自分の心をみつ  
めて見ました。

そうすると如何にせう。  
私の前に無数のコスモス花  
がまるで生物の絨毯、月光  
を縫ひつて眼も眩し様に

校に通つてさうぢやないか。  
私そんな言葉にも唯  
らものを感じた。  
私は其の夜も手帳ひき  
ら歸つて夕飯を食べる  
時、思ひ切りの様に箸を  
いて。  
「お母さんあの人に來  
彼女やあなたね。」と鼻息  
に呟した。  
さうであつては……  
私は先程から母と父が  
「如何してこの御馳  
興さが買ふと言つて働  
んだ相です。」兄弟同  
平吉さんと正夫とは從弟同  
は長くないといつて氣が  
なんだそうです。「平吉  
は正夫の父で、廣吉と梅  
のが平吉のお母である  
のが平吉のお母であつ  
結構する。正夫でつづ  
り結核事で祖母と母達  
のである。

「うんせん」と話だ。環  
可憂くならないや。  
あんなに年をつても夫

現れ出て来たので得々然と  
あゝスモスの花 コス  
スモの花。  
私は、心にかの静いた月  
に寄つて私の心を細める様  
に努力しました。  
私には、遠い故郷の恋し  
くも、美しく、或る少年  
の頃の手紙を想ひ出す事  
ので。

(「微笑」スモスと月の宵と)  
は、私の過去の夢の中に何

意慾の  
不足

北尾三  
一助説

(「滑稽愛憎物語」)  
村と組んだ。作である。  
捕れてあるは、大連への日  
かまたんねんた。在致で、  
動きさうが捕らぬといふ言  
及野をこれした品である。  
し、これははいかにやうな  
ものに氣付く。今迄の生活  
の頃の模範度へ(安住ハサ  
スピー、アレンバヤサーニ  
んな関を結んでたので  
直ぐには私も不得かゆ  
きませ。

私はから靜かに納得の  
りて落込む出の夢の星を繞  
つてまわると思ふこと。  
今夜話と言ふふりで私の  
家の四家で往は朝に忙し  
小母さん達は分けた近所  
に帰いて美しい法装束や赤  
い襦をつたり、買物靴に  
連れ去って行つた。静かに  
けで甲斐々々しく生を働い

運んだ。  
まあ、今こないだもな  
不當に云はふ位なら  
俺も死んぢやんと云つた  
言ふ二人で正統さん  
三人で入。返ささん  
気の毒なわけ。前から  
社に從弟賣らんとな  
社に從弟賣らんとな馬鹿  
か氣狂ひのが生れる事  
多いようだに。  
母は斯う。ふ事になる

この人の前  
個の作は放蕩  
にふかたであ  
うなものであ  
つたと記述す  
るが、今回の  
はまじくに題  
材と組んだ。

自分の事の概一生懸命  
なるのだが、好むそ  
女は如何にも好むそ  
唯々母かあの前に燕  
に來た事のある彼女(「滑稽  
江と云ふ各あつた。  
と懇かされたと思に快  
な気持ちに興れた。幾  
富学生と云ふと改い  
ソタに驚かれた。  
それはコスの花が  
一杯に咲き盛れて浴んだ  
秋の大空に満ちる光があ  
々と眩しい畫であつた

江口夜詩薈社第一回作品

# 箱根蘆旅の唄

求

松竹下加茂映畫「女次郎長」主題譜

# 黃昏道中

東海林太郎

病菌防禦の

第一線は：

力の培ふにはビタミンA Dの補給の連用が肝要です。

冬になると

め、體內にDを缺乏し皮膚や粘膜の抵抗力が衰へがちです。かぜや病氣に負けぬよう……冬の保健劑としてハリバが賞用されるのは、これによつてA・Dが補給され紫外線を浴るのと同じやうな効きめがあるからです。




**なぜ單位が正しい？**

A・D力量の測定はハリバが最も適する。

ビタミ

DA 三六〇〇單位



			一 日 量
●	●	●	
●	●	●	

● 臭か許肝木は ● 仇 龍

ハムハ 健康康向上に

東京・大阪 田邊商店







吉野町三丁目(金泰前)  
電話③三二七二番

氣溫 最低零下七度  
 古  
 米を廃止し平素通  
 御諒承相成度此段  
 灰販賣組合  
 ③四二一五  
 贈  
 松竹橋生花組物  
 多少に拘らず配達致します  
 中央植物園賣店  
 吉野町二丁目(金泰前)  
 電話③三二七二番  
 貳圓五拾錢より



